

<大阪府指定文化財 記念物（史跡）>

名 称	きしわだはんしゅおかべけぼしよ 岸和田藩主岡部家墓所
所在地	岸和田市門前町二丁目 354 番 1 の一部
所有者	個人
面 積	2087.66 m ²
年 代	江戸時代前期～明治時代初頭

説 明

○概要

岸和田藩主岡部家墓所は、岸和田市門前町二丁目に所在する。標高 53m 前後の細長い舌状の丘陵に立地し、東西をため池に囲まれているため南側の丘陵上部以外は開けている。岸和田城からは 3.5km 離れており、江戸時代には海岸と天守が眺望できたと推測される。

岸和田藩岡部家は、寛永 17 年（1640）に 6 万石で入封した岡部宣勝^{のぶかつ}を初代とする。岡部家は 13 代にわたり明治 2 年（1869）の版籍奉還まで藩主を務めた。なお 6 代長住^{ながすみ}は 8 代長備^{ながとも}の後に、9 代長慎^{ながちか}は 11 代長發^{ながゆき}の後に没している（図 4）。

墓所は宣勝の隠居所を寺とした泉光寺^{（註 1）}に隣接し、歴代藩主の墓が築かれている。内 5 代長著^{ながあきら}のみ元々十輪寺に葬られていた^{（註 2）}が、昭和 45 年（1970）に市道の拡幅に伴い墓所内に移築、再葬された。また、12 代長寛^{ながひろ}の墓は千葉県野田市海福寺に築かれているほか、東京^{（註 3）}と高野山^{（註 4）}にも岡部家の墓が所在する。「岸和田藩主岡部家累代の墓」として岸和田市の史跡に指定されている。

○墓所の特徴

藩主墓所の北側に隣接し家臣団墓所が所在している。藩主墓域と家臣団墓域は土堀によって区画されており、藩主墓域の北側に墓所築造時と同時期と考えられるものが現存している^{（註 5）}。発掘調査によりその西側の延長線上に土堀が確認され^{（註 6）}、藩主墓に近接して 6 代から 8 代墓を囲うように築造されていたことが分かった。また南側には近代以降に造られたものと考えられる堀があり、発掘調査によりその東側の延長線上に墓所築造時の土堀が確認された^{（註 7）}ことから、概ね同位置に堀が存在していたと想定できる。以上のことから藩主墓域は土堀に囲まれていたことが推測される^{（註 8）}。

藩主墓域の中には初代藩主岡部宣勝から 11 代藩主岡部長發までの墓と 13 代岡部長職^{ながもと}の墓の計 12 基が築かれている。南北約 31m、東西約 46m の範囲に、東側に初代から 4 代、北側に移築

された5代と6代から8代、南側に9代から11代と13代の墓がコの字状に整然と^(註9)配置されている。墓群の中央には通路があり、それぞれの墓を繋ぐように石が敷かれている。ただしこれらの敷石は近現代に整備されたことが調査で判明している^(註10)。敷石の間には各墓の拝石が設置されている。

○各藩主墓の特徴

他所に築かれていた5代墓を除き^(註11)、各藩主墓は概ね同じ様式を踏襲している。基壇は長方形で、高さは地表から約0.7mを測る。基壇上に石柵を設け、中央部分を開口してそこに石製の扉と階段を設ける。基壇内は床石を敷き、基壇上に一对の石灯籠と手水鉢を置く。基壇の中心に基台を積み、その中心に墓標として反花座^{はんげざ}に乗る五輪塔を配置し、基台上に一对の花瓶を置く。基壇や五輪塔の高さはほぼ同じであり、規格が統一されていたと考えられる。一方で、基壇、五輪塔、石灯籠の形態に細かな差異が見られる。

基壇は外側に石を2段積んだ間知積み^{かんち}みで、基壇の背面や側面に排水溝が設けられている^(註12)。石の積み方が墓によって異なり、初代墓は亀甲積み風であるが、2代墓以降は正面が布積み風である。ただし2代墓から4代墓までは側面の布積み石の目地が揃っておらず、6代墓以降は目地の揃った布積みとなる。床石は方形の石板を使用している。墓により床石の形状が正方形から長方形に変化し、配列も規則的になっていく。6代墓で床石の形状と配列は規則的となる^(註13)。基壇は墓域造成時の整地土の上から掘りこんだ土坑内に設置しており、基底は基本的に地山上に設置されるが、2代墓と6代墓は地盤強化のための礫を基壇下に入れる。また基壇を設置したのち、土を積んで整地を行っているようである^(註14)。

五輪塔はほぼ同大、同形で共通のプロポーシオンを持つ。ただし細部を見ると空輪と火輪の形状がわずかに違う。空輪は円錐状から円柱状へと変化し^(註15)、火輪は円弧が緩くなる^(註16)。また基台は初代墓と2代墓が細長い直方体を4石組み合わせるのに対し、3代墓以降は2個の直方体の石のみで構成されている。石材は花崗岩を使用しており、肉眼観察の結果ではあるが初代のみやや赤みを帯びた石材を使用している。

石灯籠もほぼ同大、同形で共通のプロポーシオンを持つ。ただし細部を見ると請花^{うけばな}の厚さや宝珠の形状にわずかな差異がある^(註17)。また設置の仕方が大きく異なり、時代を経るにつれて基礎を基壇中に埋め込み、返花^{かえりばな}の彫刻部分のみが見えるような配置に変化する^(註18)。

○評価

一般的に江戸で没した藩主は江戸に葬り、国許で没した藩主のみ国許で墓を造るという事例が多い^(註19)が、岡部家は、12代を除いて江戸で没した藩主の墓も国許に築き、5代を除いて泉光寺の墓域に築いている。これは畿内や岸和田藩周辺に所在する大名墓と比較しても数少ない事例である^(註20)。また、府内の城主格の大名墓としても、唯一の事例である^(別表1)。

墓の形態については、間知積み基壇に石柵を廻らせ、基台上に墓標を置き、花瓶や石灯籠を持つという形をとる。大名墓の上部構造については石柵、基壇や花瓶等の荘厳具を配置するという様式が17世紀中葉から後半にかけて全国的に画一化されるとされている^(註21)。初代

の没年が17世紀後半にあたることから、全国的に様式が統一されていく中で作られた、近世の大名墓の典型的な形態を示したものであるといえる。

また、藩主墓域を取り囲むように土塀を配置し、家臣団墓域と明確に区画していることから、家臣団と土地を同じくしながらも、藩主墓のみの空間として整備する意識があったと考えられる。藩主墓域内では、墓の基壇正面が初代墓から4代墓、6代墓から8代墓、9代墓から13代墓がそれぞれ揃えられていること、また強い規格性がある墓の構造より、計画的に墓所を造営していたとみられる。

上述の特徴より、岸和田藩主岡部家墓所は府内のみならず、畿内の近世大名墓を代表する事例であり、造墓の様相がうかがえる重要な資料であることから、大阪府指定としてふさわしい。

(註1) 泉光寺は、元々岡部宣勝が藩主を退いた後の隠居所であった。寛文8年(1668)に宣勝が死去した際に、宣勝の遺言により隠居所が泉光寺とされ、岡部家の菩提寺となった。初代から13代までの肖像画や位牌が収められている。

(註2) 十輪寺は岸和田市野田町に所在する。5代長著が浦田村(貝塚市)にあった地藏堂を岸和田村に移し、十輪寺の基とした。移設の際に地下構造が判明しており、骨壺や墓誌が出土している。墓誌には「公 柩抵泉以廿九日火葬於城東十輪寺壺 公之遺命也」という記載があり、5代は江戸で没したものの、遺言により棺を岸和田まで運び、十輪寺で火葬されたことが分かる。

(註3) 東京都新宿区の済松寺に江戸で没した6代、8代、9代の墓や妻子の墓が造営されている。藩主の墓標は五輪塔である。済松寺と泉光寺の五輪塔の高さはほぼ同じであるが、基壇の高さを含めると泉光寺の方が高くなる。他の大名墓の事例から考えると、6代、8代、9代は江戸に埋葬され、国許の墓は遺髪等を入れた供養墓である可能性が高い(関根 2019)。また、13代長職の墓が東京都港区の青山共同墓地にある。

(註4) 高野山奥の院に岡部家の墓所が2箇所造営されている。中の橋付近に所在する墓所には、初代の父母及び2代行隆と銘文が判読できない1基の計4基の五輪塔が建てられている。

(註5) 岸和田市教育委員会 2015

(註6) 岸和田市教育委員会 2015

(註7) 岸和田市教育委員会 2014

(註8) 東側は現代の道路があり、土塀の状況は不明である。西側は現在の土地利用を踏まえ、近代以降の土塀の西端及び門がある位置までが藩主墓の領域であったと想定している。

(註9) 初代墓から4代墓はそれぞれ約0.8m、6代墓から13代墓は約0.6m間隔で並べられている。

(註10) 岸和田市教育委員会 2013

(註11) 5代墓の五輪塔は40cmほど低く、石柵の幅は50cmほど狭くなっており、面積も小さくなっている。また石扉の意匠も変化している。

(註12) 初代墓及び2代墓は基壇背面にそれぞれ1本の溝が彫られている。その後溝の本数は異なるが、左右両側面にも溝が彫られるようになる。

(註13) 初代墓及び2代墓はほぼ正方形に近い石板を使用し、規則的に配列している。3代墓及び4代墓はほぼ正方形に近い石板を使用するが、一部に正方形を2倍から3倍にした程度のほぼ長方形の石板を使用する。6代墓はほぼ長方形の石板を規則的に配列している。7代墓はほぼ正方形に近い石板

を使用するが、4代墓に比べてほぼ長方形の石板の使用割合が増える。8代墓はほぼ長方形の石板を大部分で使用するが、配列に規則性が乏しい。9代墓以降は長方形の石板を規則的に配列している。

(註 14) 岸和田市教育委員会 2014・2015

(註 15) 初代墓の空輪は円錐形状の突起を持つが、代を下るにつれて円錐が細くなり4代墓の頃には円柱形状となる。また7代墓以降は突起部の長さが少しずつ短くなる。

(註 16) 火輪は初代墓と2代墓が高さ 60cm、幅 95cm で円弧がきついが、3代墓以降は高さ 55cm、幅 100cm で円弧が緩い。

(註 17) 宝珠を乗せる請花が、初代墓と2代墓は厚さ約 15cm だが、3代墓以降は厚さ約 10cm となる。また、9代、11代、13代の墓では宝珠が球形から少し潰れた球形に変化している。

(註 18) 初代墓及び2代墓は床石の上に設置されている。これに対し3代墓及び4代墓は石灯籠の基礎を半分ほど床石より埋め込んでいる。この影響で基礎周辺の床石配置が乱れている。6代墓以降は基礎がほぼ埋まり、返花の彫刻だけが露出している。基礎周辺の床石の配列は7代墓がほぼ左右対称となり、6代墓と8代墓以降は規則的となる。

(註 19) 松原 2018

(註 20) 畿内及び岸和田藩周辺に所在する大名墓を確認すると(松原 2018)、江戸時代を通じて墓所が築かれているのは以下の通りである。なお国許に墓が作られていない場合は江戸に墓を築いている事例がほとんどである。

摂津国三田藩九鬼家墓所(初～5、8～14代)。河内国丹南藩高木家墓所(初、2、4～10、12代)。
紀伊国和歌山藩徳川家墓所(初～4、6～12、14代)、丹波国山家藩谷家墓所(2～4、8～13代)、園部藩小出家墓所(初～9代)、柏原藩織田家墓所(4～13代)、播磨国明石藩松平家墓所(初、2、4、6～8代)。

(註 21) 松原 2012

[参考文献]

- ・岸和田市教育委員会 2012 「2. 泉光寺の測量調査」『岸和田市文化財調査概要 38 平成 23 年度発掘調査概要』
- ・岸和田市教育委員会 2013 「2. 泉光寺の調査」『岸和田市文化財調査概要 39 平成 24 年度発掘調査概要』
- ・岸和田市教育委員会 2014 「2. 泉光寺の調査」『岸和田市文化財調査概要 40 平成 25 年度発掘調査概要』
- ・岸和田市教育委員会 2015 「2. 泉光寺の調査」『岸和田市文化財調査概要 41 平成 26 年度発掘調査概要』
- ・関根達人 2019 「若狭小浜藩主酒井家の墓制—江戸と国元、本葬と分霊—」(『人文社会科学論叢』6, 弘前大学人文社会学部)
- ・松原典明 2012 「近世大名墓所の構造様式」(『近世大名葬制の考古学的研究』雄山閣)
- ・松原典明編 2018 「付録 近世大名墓地名表」(松原典明編 2018 『近世大名葬制の基礎的研究』石造文化財調査研究所)

(別表 1) 府内大名墓一覧

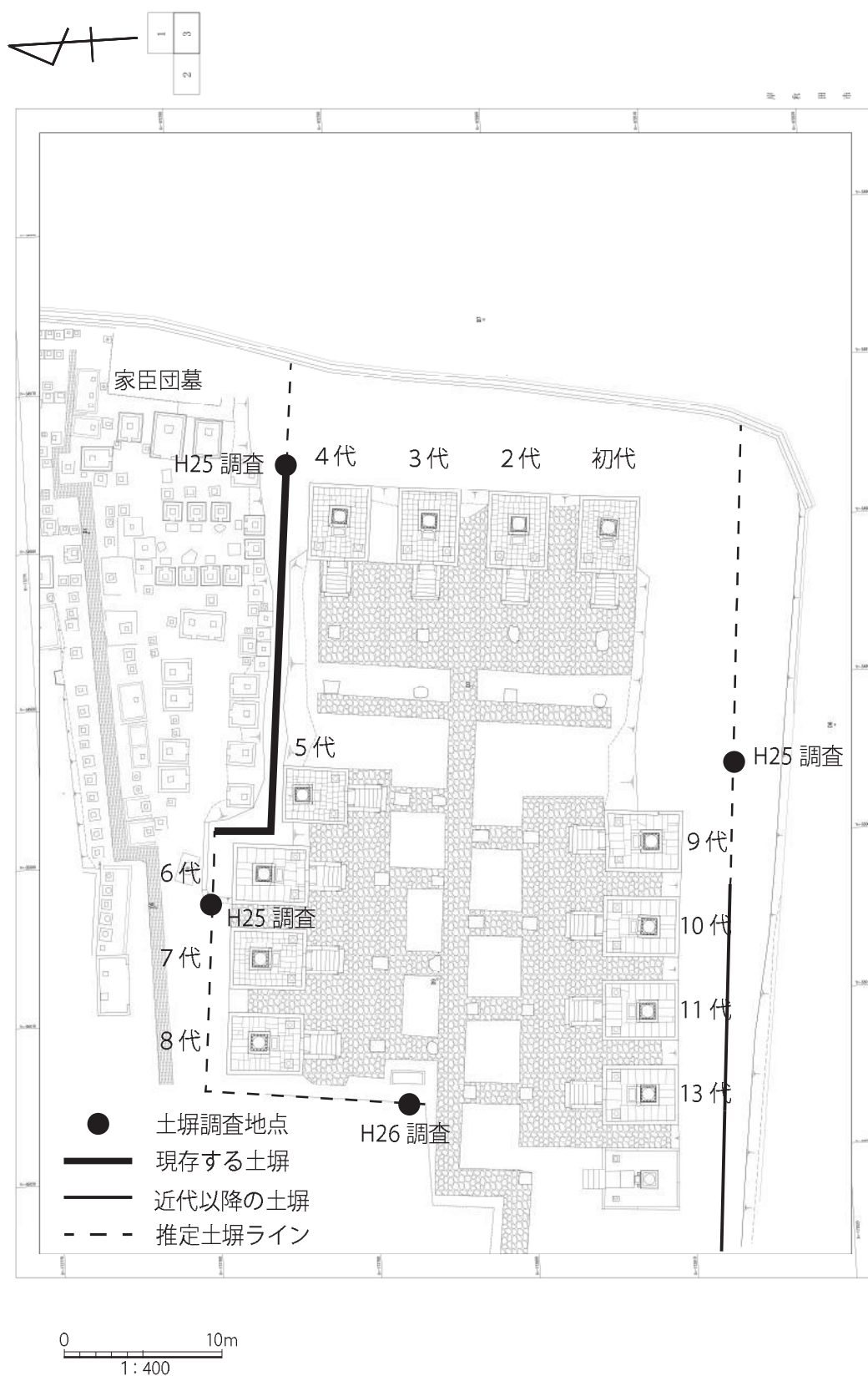
藩	藩主 姓	大名	家格	石高	寺院	市町村	〇代	墓標	石柵など
岸和田	岡部	譜代大名	城主	6 万石	泉光寺	岸和田市	初代～11 代、 13 代	五輪塔	石柵、基壇、灯籠、 花瓶
伯太	渡邊	譜代大名	陣屋	13500 石	南溟寺	泉大津市	初代～9 代	自然石	なし
麻田	青木	外様大名	陣屋	1 万石	仏日寺	池田市	初代～4 代	無縫塔	なし
丹南	高木	譜代大名	陣屋	1 万石	来迎寺	松原市	初代、11 代	五輪塔	なし
					叡福寺	太子町	初代、2 代、 4～10 代、12 代	五輪塔	なし
狭山	北条	譜代大名	陣屋	1 万石	専念寺	大阪市 中央区	初代	石碑	石柵、基壇、灯籠
					法雲寺	堺市 美原区	12 代	五輪塔	石柵、灯籠、花瓶



【図1】岡部家墓所位置図（国土地理院地図を一部改変）

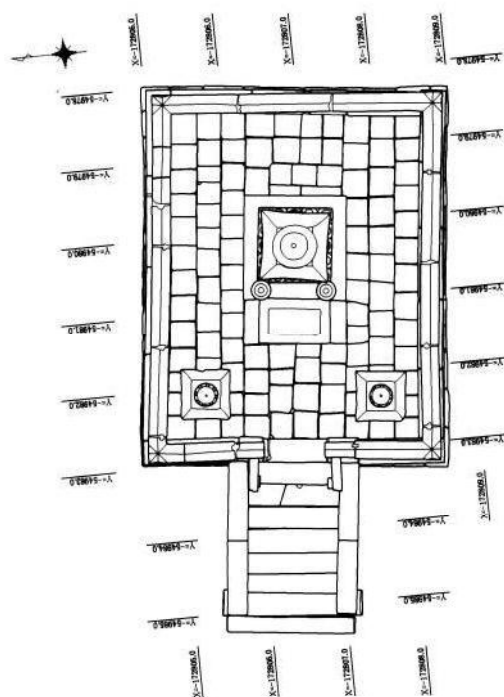


【図2】岡部家墓所・岸和田城位置図（国土地理院地図を一部改変）



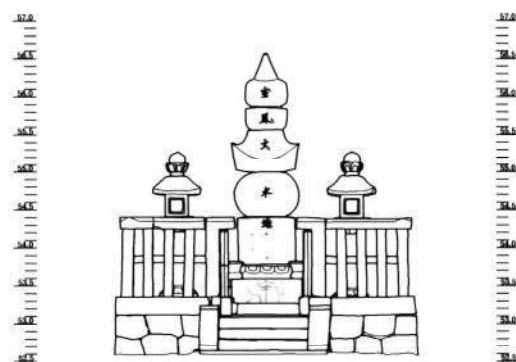
【図5】岡部家藩主墓配置図（岸和田市提供図面を一部改変）

初代



平面図

平面図

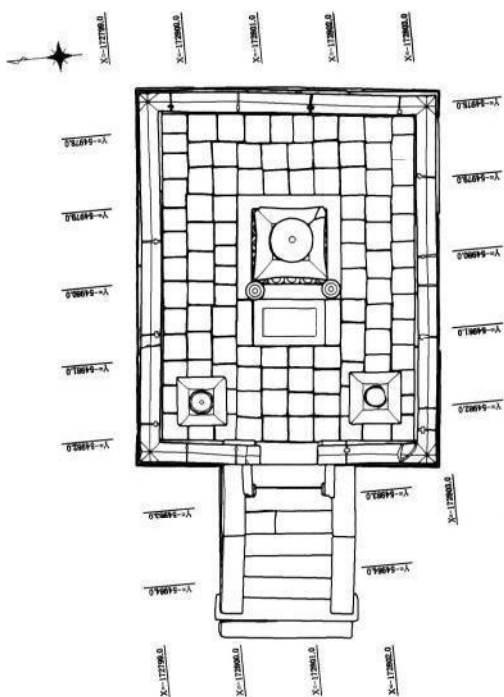


正面図
(玉垣表示)

正面図

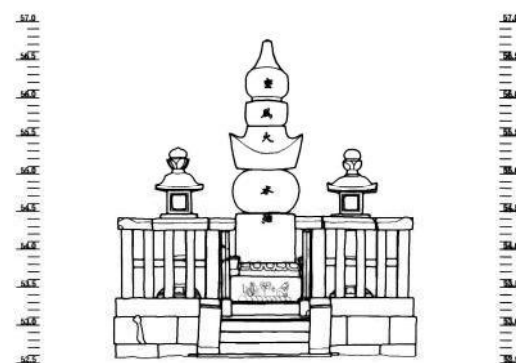
0 3m
1: 100

2代



平面図

平面図

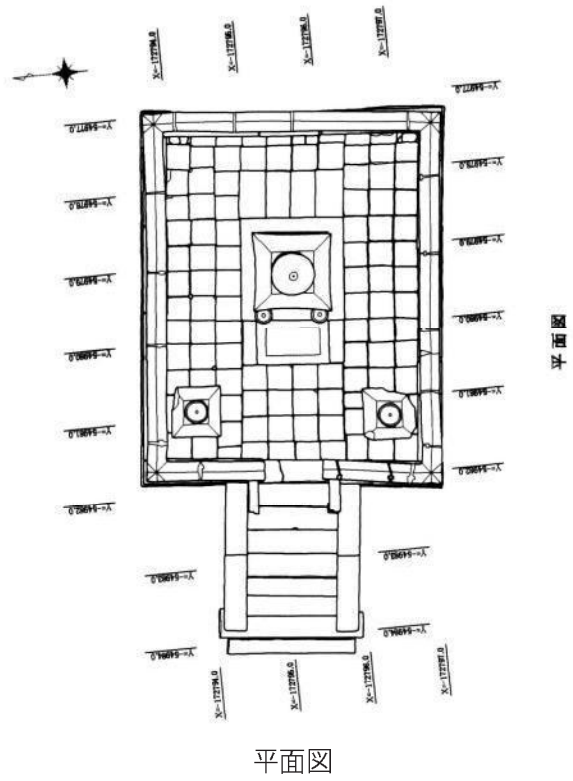


正面図
(玉垣表示)

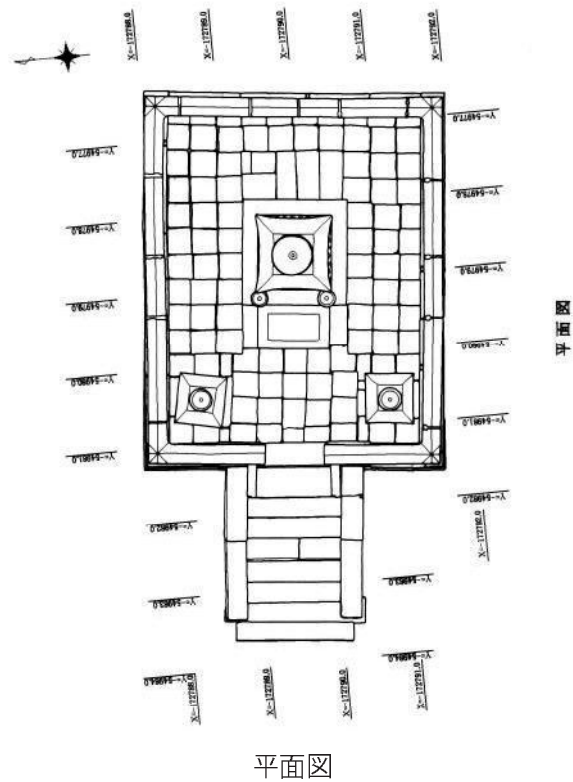
正面図

【図6】岡部家藩主墓平面・正面図（初代・2代）
（岸和田市教育委員会 2014 を一部改変）

3代

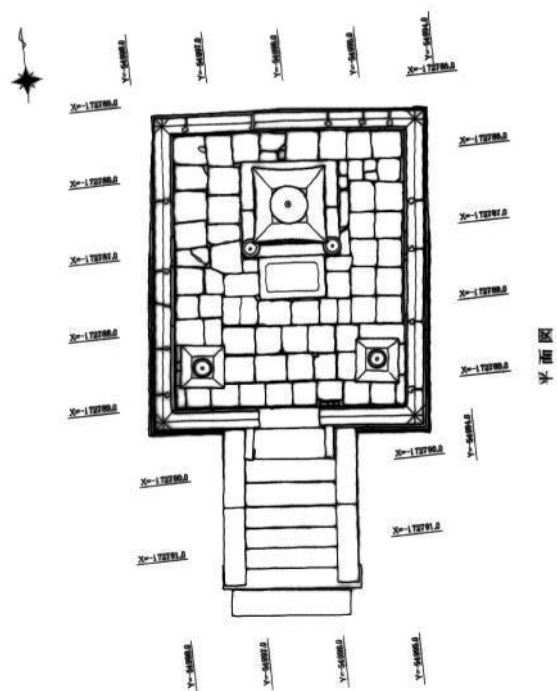


4代

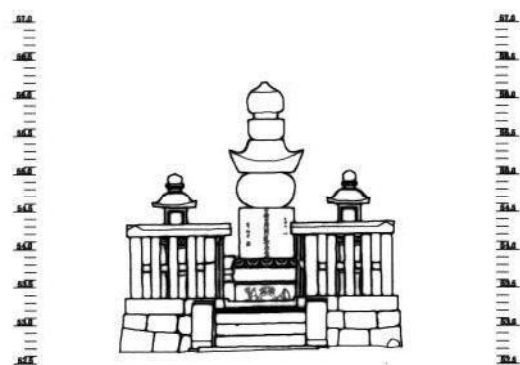


【図7】岡部家藩主墓平面・正面図（3代・4代）
（岸和田市教育委員会 2014 を一部改変）

5代



平面図

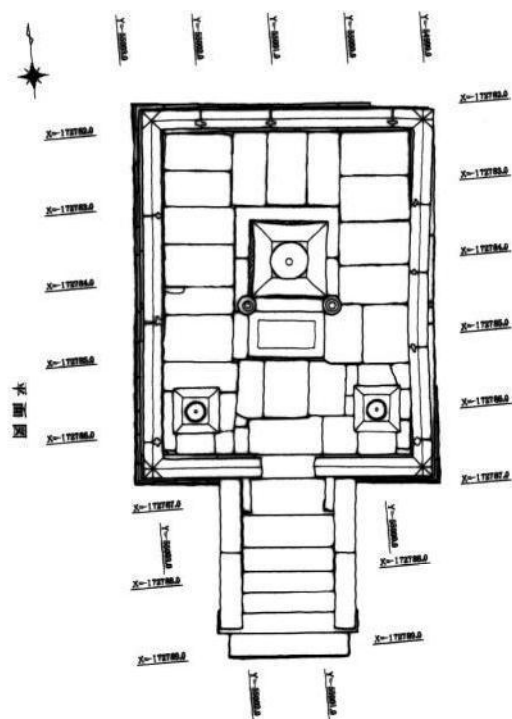


正面図
(玉垣表示)

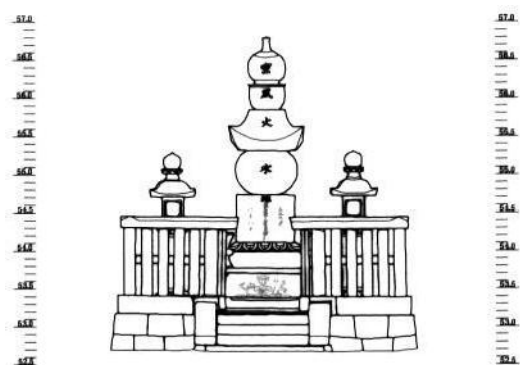
正面図

0 3m
1:100

6代



平面図

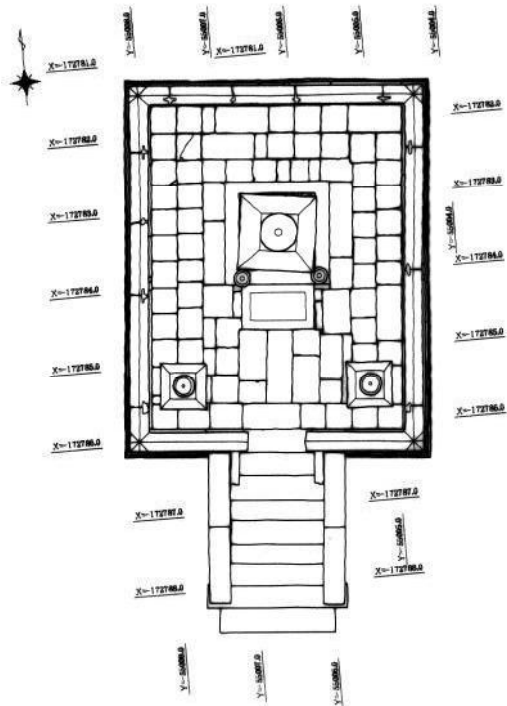


正面図
(玉垣表示)

正面図

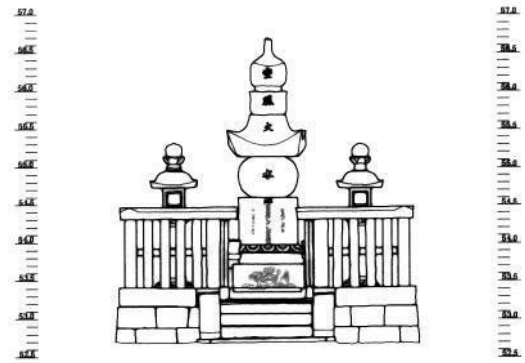
【図8】岡部家藩主墓平面・正面図（5代・6代）
（岸和田市教育委員会 2015 を一部改変）

7代



平面図

図面本

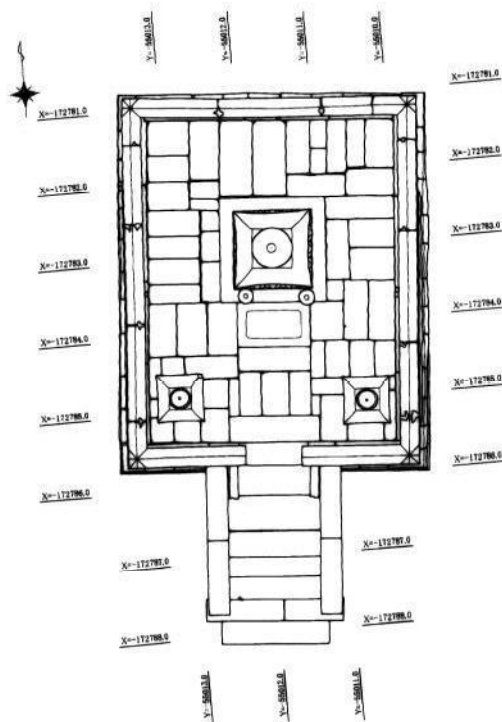


正面図
(玉垣表示)

正面図

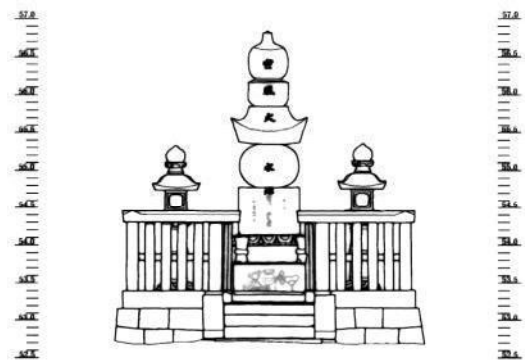
0 3m
1:100

8代



平面図

図面本

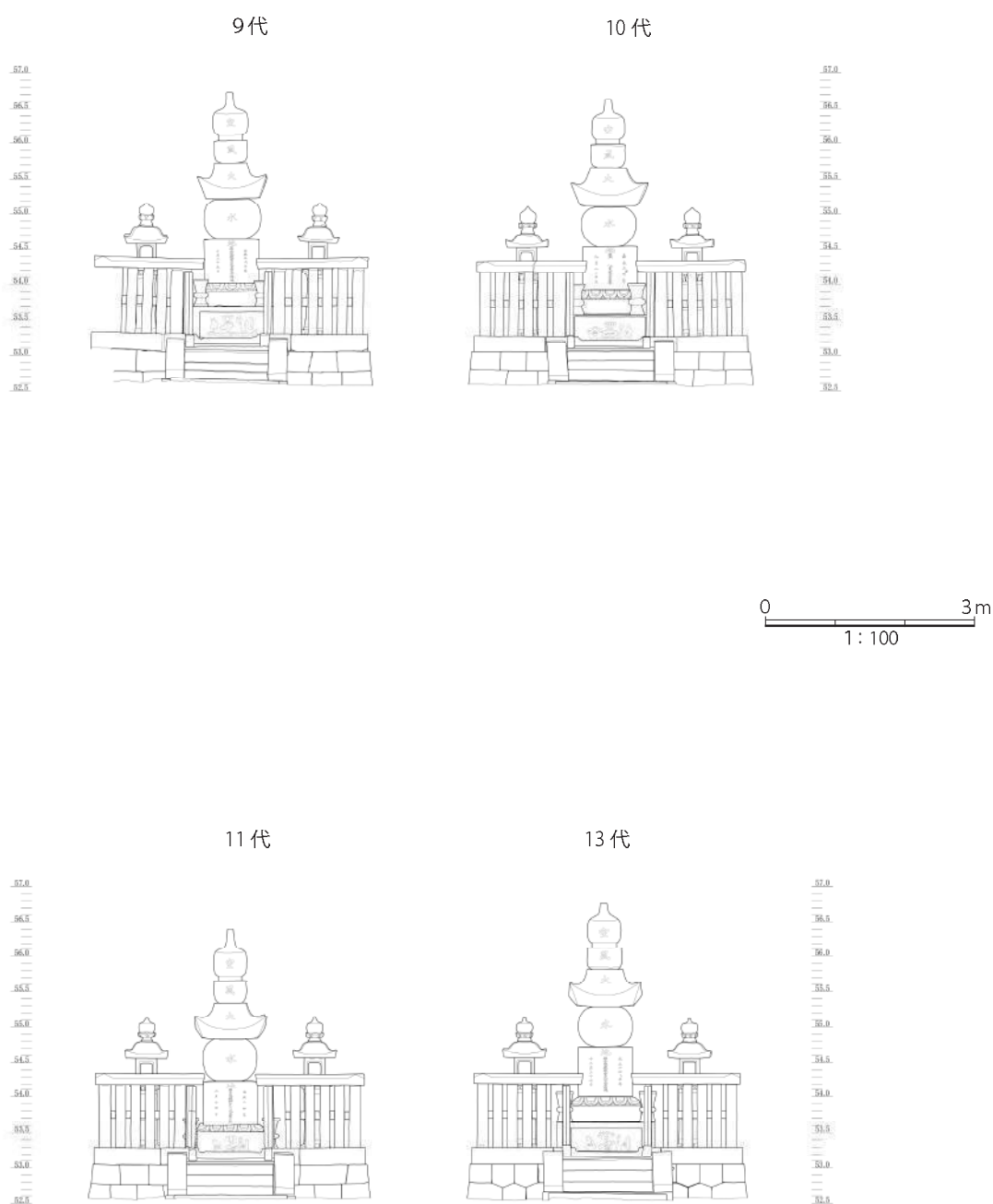


正面図
(玉垣表示)

正面図

【図9】岡部家藩主墓平面・正面図（7代・8代）

（岸和田市教育委員会 2015 を一部改変）



【図 10】岡部家藩主墓正面図（9代～13代）
（岸和田市提供）

岡部家 1代～4代墓



岡部家 5代～8代墓



岡部家 9代～11代・13代墓

